

「新しい人へ」

コロサイの信徒への手紙 第3章 1節～11節

説教 本庄侑子伝道師

「さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。」(コロサイの信徒への手紙3章1節)地震のニュースを聞き、この世のはかなさを思い知らされている中であって、御言葉はキリスト者が何を求めて生きるのか呼び覚まします。「上」とは神が支配し、御心が成就する所、「キリストが神の右の座についておられる」(1節)所です。また、「右」は「神の力」を示します。キリストが神の力を握って、しておられることを求めよ、と呼びかけられているのです。

「あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命はキリストと共に神の内に隠されているのです。」(3節)御言葉は、地上の事柄から私たち自身に目を向けさせます。洗礼を受け、キリストと共に死に、キリストと共に復活させられた(1節)私たちが、なおこの地上に残されていることこそが、本当の意味で地上を揺り動かしている出来事なのだ、と。

洗礼は、世や自分からの解脱ではありません。むしろ、洗礼を受けると、前以上にこの世に積極的に関わり、この私として生きていきます。キリストご自身が世の悲惨さの中に生まれ、徹底的に関わり抜き、死んで復活してくださった方でした。洗礼において、私たちの古い人は、その行いもろとも剥がれ落ち、造り主と似た姿をした新しい人として復活させられ、この世に残されました。たとえ世のむごさに振り回されたとしても、洗礼を受けた限り、この世は虚しい、私の人生は無意味だとは言えなくなってしまったということです。

創世記を読むと、神は私たちが何ら欠けのない存在としてお創りになり、出来栄えに満足なされたことが分かります。しかし、この神を知らなければ、私たちは存在の意味を見いだせません。自分の存在意義を自分で作り出すために、人の評価を得ようとし、自分と人を比べては自分ではない誰かになろうとします。聖書が語る罪は何か悪いことをすることではありません。神なしで生きようとすることです。この罪を抱えた人生には虚しさがつきまといまいます。5節や8節のようなことを繰り返さずにはられません。

地震によって再び、「神がおられるなら、なぜこのようなことが起こるのか。」という叫びが立ち上がっています。神なしで動いてきた世界が

そう叫ばないではられないほどに、この世界が神を必要としていることが明らかになってくるのです。虚しさの中で、神がご自身を顕してくださいる慈しみが、今、地上を覆っています。

キリストはこの世に来られました。神なき世界の虚しさの極みに下り、ご自身の命を投げ打って死に、よみがえり、神なき世界ではなく神と共にある世界で、神に創られた私として生きられるように道を開いてくださいました。

キリスト信仰は、何か観念的な教えを信じることではなく、キリストのものとなることです。`I believe in Christ`というように、キリストの中に入ってしまふのです。神は洗礼を通して私たちがキリストのものとし、キリストの中から自分を見ることができるようになってくださいます。これまで、人の言葉や自分自身を通して自分を見ていたかもしれません。しかし、洗礼を受けると景色が一転するのです。キリストの中に入ることによって、キリストの目に自分がどう映っているかを見るようになり、自分でも知らなかった本当の自分を知っていくのです。

私自身、礼拝や、教会の交わりを通してそれを経験させられてきました。愛の言葉をかけられ、愛されることを通して、キリストの前では、生まれながらの自分の方がふさわしくないことに気付かされ、キリストの目に映る自分へと変えられてきました。そしてそこに、地上を揺り動かす重大な出来事があります。神に創られた私を受け入れ、愛するように、私たちも他者を受け入れ、愛することを通して、私たちと接する誰かに神の力が及んでいくからです。

今はまだ、神の働きの全貌は隠されています。しかし、「あなたがたの命であるキリストが現れる」(4節)終わりの日、全てが明らかとなります。私たちがどれほど神に愛されていたか、私たちを通して神がどれほど他の人を愛しておられたか、今日という一日が神がどれほどこの世を愛しておられた日であったか。その日、私たちははっきりと見ることとなります。

今朝も、キリストが神の力を発揮して、この世に働きかけておられます。私たちはその働きの最先端で用いられるべく、今朝もここに呼ばれたのです。

(記 本庄侑子)